

事 務 連 絡
令 和 3 年 9 月 22 日

各

都 道 府 県
保健所設置市
特 別 区

 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

最近のダニ媒介感染症の国内の発生状況について

日頃より感染症対策に御協力いただきましてありがとうございます。

今般、北海道大学より、新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の対策に資する開発研究」（日本医療研究開発機構（AMED）研究費）として、エズウイルス感染症に関する新たな報告がありましたので情報提供いたします（別添）。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱を含むダニ媒介感染症については、発生する地域の広がりとともに継続して確認されています。ダニ媒介感染症の予防対策については、「ダニ媒介感染症に係る注意喚起について」（平成30年6月1日付け厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡）、「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に係る注意喚起について」（平成29年7月24日付け健感発0724第3号厚生労働省健康局結核感染症課長通知）等により、住民に対して、特に山野等の屋外においてマダニに咬まれないための予防措置の周知・啓発をお願いしているところです。

貴職におかれましては、最新のダニ媒介感染症の発生状況も含め、ダニ媒介感染症の予防措置について、引き続き、住民に対する周知・啓発を行うとともに、医師・獣医師等関係者への周知をお願いします。その際、感染予防に係る周知・啓発用ポスター（「ポスターを用いた蚊媒介感染症並びにダニ媒介感染症の予防啓発及び対策の推進について」（令和3年7月2日付け厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡））やダニ媒介感染症の発生状況等を、厚生労働省及び国立感染症研究所HPにおいて掲載していますので、適宜御活用くださるようお願いいたします。

記

1 エゾウイルス感染症

エゾウイルスは、昨年1月北海道において、マダニと推定される虫による刺咬後に発熱と下肢痛を主訴に受診した患者から検出された新規のオルソナイルウイルスです。¹⁾ 別の調査研究においても、エゾウイルスは、北海道における不明熱性患者症例に対する遡及調査(2014年～2020年)等により、合計7例の患者の検体から当該ウイルスが検出されたことが報告されています(別添)。

エゾウイルスについては、他のダニ媒介感染症と同様にマダニに咬まれないようにする予防措置が重要です。エゾウイルスの疫学情報や臨床症状等の詳細については不明な点が多いため、厚生労働省においては、引き続き、調査研究等を通じてその知見を集積するとともに、随時情報提供してまいります。

- 1) 国立感染症研究所：「北海道における新規オルソナイルウイルス(エゾウイルス: Yezo virus)によるマダニ媒介性発熱性疾患の発見」, IASR Vol. 41 p11-13: 2020年1月号
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/route/arthropod/1774-idsc/iasr-in/9354-479d01.html>

2 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

平成25年に国内で初報告されて以降、報告数は年々増加傾向にあります²⁾。発生地域について、従来は西日本に限局していましたが、本年3月に静岡県において東日本で初めて確認された事例として、「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の国内の発生状況について(情報提供)」(令和3年3月8日付け厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡)により情報提供したところです。

当該事例以降では、愛知県において、本年6月にSFTSの事例が確認されました。また、千葉県における不明熱性患者症例については、遡及調査の結果、平成29年の時点において既にSFTSの事例が発生していたことが確認されました³⁾。

以上のことから、SFTSの流行地域については、これまで国内で確認されていた地域よりも広い地域で潜在的に存在することが明らかになりつつあります。

- 2) 国立感染症研究所：「感染症発生動向調査で届出られたSFTS症例の概要」
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/sfts-idwrs/7415-sfts-nesid.html>
- 3) 国立感染症研究所：「関東地方で初めて感染が確認された重症熱性血小板減少症候群の1例」, IASR Vol. 42 p150-152: 2021年7月号
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/sfts-iasrs/10449-497p02.html>

3 日本紅斑熱

感染症発生動向調査によると、日本紅斑熱の感染者数は近年増加傾向にあり、昨年の発生報告数は過去最多（420件（速報値））となりました。本年の発生状況についても、昨年を上回るペースで推移しており、その発生地域の広がりも確認されています⁴⁾。

4) 国立感染症研究所：「日本紅斑熱 1999～2019年」，IASR Vol. 41 p133-135：2020年8月号

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/jsf-m/jsf-iasrtpc/9809-486t.html>

(参考)

■厚生労働省ホームページ（ダニ媒介感染症）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

■国立感染症研究所ホームページ（マダニ対策、今できること）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html>

(照会先)

厚生労働省健康局結核感染症課

担当：山田、東良

電話：03（5253）1111（内線 2387/2376）